

平和を

金日(14日)
2004
8.26

劣化ウラン弾の危険性認識を

91年の湾岸戦争以降、放射能汚染を憂う新たな兵器として懸念されるのが劣化ウラン(DU)だ。厚く鈍重で航空機搭載の陸物利用で生み出され、米軍がアフガン攻撃やイラク戦争で大規模に使用したが、がんや先天異常などの懸念が噴き出している。

中央区の産婦人科会館で6月、うちの女性医師、ジャナ・ガリア・ハッサンさん(48)の講演があった。同会館のバスにある「アフガン母子病院」の小孩がん検診責任者で、名古屋大で白血球増殖検査を受けたアフガン少年の主治医として来日した。アロシエタキが映し出した

「科学的証明」を待てぬ患者たち

た写真に、市民や医師関係者ら約80人の聴衆は絶叫し、胸が腫れた。腫瘍で腫る腺が変形したところを目の字もたら。腫や腺を待たずに生まれてくる赤坊。90年代半ばから、小児がんや先天異常が増した事実が報告された。米軍は91年の湾岸戦争時、機関砲弾などとして主にアフガン南部で少なからず用いる、DUを使用した。

ハッサン医師によると、



ジャナ・ガリア・ハッサンさん

は3000ともいわれる。X X 「今は腺をカサカサをきり、腫瘍を摘すれば、米軍の行ったことがはっきりする。腫瘍後、ハッサン医師に話を聞いた日本人医師がいた。南に診療所を開設する内科医足立直志さん(58)だ。「社会の病気の解決も医師の仕事」と思いつく、70年代から産婦人科、公費医療機関などとして自動車工場の有機溶剤汚染や、高濃度の大気汚染など公害問題に取り組んだ。「戦争防止・核兵器廃絶を訴える京都医師の会」にも92年の発足当初から参加。近年はDUの危険性も講

を主張する(03年4月の国務省報告)。在日米大使館ホームページで腫瘍情報。日本の川口順子外相も今年1月、同国駐米大使の講演で「イラク戦争で死んだ米軍に問いを合せて『言えない』とどこ。WHOなどの研究では「腫瘍に結びつきはない」と結論したと述べた。

ハッサン医師は「DU以外に原因は見当たらない。各国

水銀は90年に初の患者が腫瘍され50年に熊本大公有機水銀酸中毒を指摘。しかし、原因企業アツチは「業種がな」と否定。02年に国がよるべく「原因はアツチのメチル水銀」と認めるまで工場は隠蔽し続け、1万2890人の患者(認定・未認定患者の合計)を発生させた。

足立医師は「科学的証明は10割の証明を要求するが、そ

患者らの平和の願いと腫瘍に、大国の指導者たちは核を手放さず、その罪は、声を上げられない患者たちに引き継がれている。

うちの医師は、湾岸戦争後の経済制裁、肩打ちをかけたイラク戦争にのみ最悪の状況にある。腫瘍は小児患者を抱えるアフリカ母子病院や、癌腫瘍や医療用薬品などが不足。米軍基地も多い。日本政府の援助はなく、日本人拉致事件以来、頻りのNOO支援も不明な状況だ。

「未来を憂うために、私たちは行動しなければならぬ。ハッサン医師は腫瘍の最後に、日本の聴衆に呼びかけた。「野上(野上)」。次回は9月1日、ベトナム駐米大使館です」

リンパ腫で苦しむ少年。カサカサと腫らした首を向け、黒く多量のリンパ細胞が2年1月、小児がん予



その小児のがん発症は湾岸戦争前の90年に19例(白血球15例)だったが、03年は183例(同4例)に急増。発症の形は90年の出生1000人当たり8.04人が、01年には22.19人に増えた。「以前、出産した母親は赤ん坊が男か女か私に尋ねた。今は「腫瘍も腫瘍ではないか」と聞く」。そして、今回のイラク戦争も米軍が使ったり

病を患ってきた。DU問題には科学的証明どころか、米軍はDUがん増加との因果関係について世界保健機関(WHO)の立証されていない。01年4月報告などを引用し「がんの原因の非難は事実無稽。イラクの化学兵器使用も可能性が高い」と反核活動家の組織を利用して、うちのブログなどを

劣化ウラン(Duplet ed Uranium)核兵器や原発の燃料は核分裂性の劣化ウラン(DU)が使われる。その過程で出来るウラン235が少くない副産物が「劣化ウラン」。生成分のウラン238は放射能は低いが放射能を帯び、重金属毒性もある。半減期は45億年弱と長い。米軍は兵器の約2.4倍と重く、特性に着目し、戦車の厚い装甲を覆う防護層に劣化ウラン鋼を70年代に開発。空中で着火し

焼傷も高い。陸軍物処理に頭を悩ませた米軍には恰好の「有効利用」で、湾岸戦争、イラク戦争のほか、アフガン攻撃(01、02年)でも1000tを使ったともいわれる。人体や環境への影響としては、標的に弾が当たった際に、劣化ウランの微粒子の塵(エアロゾル)の放射能が揮散される。肺など体内に入った微粒子が出す放射線(α線)が遺伝子を傷つけ、内部被曝による重大な遺伝子変異、発癌、不妊などが懸念されている。

の医師も、腫瘍の予兆にショックを受け、それ以上行動する人は少ない。アツチの土壌分析を疑った技術者は米軍に拘束された。問題を一言に叫んでも無意味というイラク医師もいると述べて、政治的圧力も示唆した。

このような状況下の「科学的」腫瘍に、足立医師は強い懸念を抱く。日本の公害問題に同様の歴史があった。

を待てぬ、腫瘍は苦しむ死に続ける。危険性がない」と証明されない限りDUを禁止すべきだと指摘する。「広島医療でも、腫瘍後5年ほど後に白血球が多発した。放射線は遺伝子を傷つけ、世代を超えて腫瘍を誘発する。私たちは腫瘍を「エ」から「腫瘍」を断絶している」

X X
広島医療の腫瘍は90年

イラクで子どもの異常急増

イラクで子どもの異常急増... (Handwritten text at the bottom of the page)

年	00	99	98	94	96	97	98	99	00	01	02	03
ハッサン医師の症例数	3.98	5.20	3.93	7.83	6.72	7.22	6.69	10.74	13.06	12.62	18.52	22.20
10万人人口当たり	19	27	21	36	38	42	42	65	92	100	160	183
ハッサン医師の患者数	476549	518929	533877	459234	565055	581332	627754	605045	704015	792017	863909	824109
人口総数												

※小児がんの内訳は、白血球▽リンパ腫▽脳腫瘍▽神経芽細胞腫▽一など